

<小学生の部>

最 優 秀

「ダブル」

甲府市舞鶴小学校5年 野中 真里

わたしは「ダブル」です。私の父はタイ人母は日本人です。私はタイで生まれ、小学校2年生までタイで育ちました。

「あなたハーフ?」。これが初めて日本の学校に来た時にお友達に言われた言葉です。私は「ハーフ」という言葉がわかりませんでした。私は家に帰って母に学校での出来事を話しました。すると母は「ハーフってというのは、外国人と日本人の間に生まれた子の事を言うのよ。でもママはハーフだとは思わないよ。ハーフは半分でしょ。でもあなたたちは半分为タイで半分为日本ではないよね。パスポートだってタイと日本2冊あるし、言葉だってタイ語と日本語が両方100パーセント話す事ができるでしょ。お家だって、友達だって両方にいるでしょ。ちっともハーフ(半分)ではないでしょ。むしろあなたたちはダブルって言ったほうがいいんじゃない。」と笑いながら言いました。「なるほど。私はダブルなんだ」。

小学校3年生の3学期にたん任の先生にたのまれて母が国際交流の授業としてタイについてお友達の前で授業をしてくれました。その時母が、タイのきれいな海の写真やおいしい食べ物、めずらしい動物の鳴き声などを紹介するとたちまちお友達は「タイいいなあ。行ってみたいなあ。真里ちゃんいいなあ。」と言いはじめました。私はとてもうれしくなりダブルに生まれて良かったと思いました。

私のしょう来の夢は、女優さんになる事です。私はタイ語も日本語も話す事ができるので、タイで日本について色々紹介したり、日本でタイについて紹介して、少しでもタイと日本が仲良くできたら良いと思います。そのためにももっともっとタイと日本の文化を勉強してみんなに教えてあげられるようになりたいと思います。

言葉やはだの色、国や宗教、住んでいる所がちがっても、私のようなダブルの子供たちがそのちがいを上手に紹介して仲の良い地球人にみんながなれたら良いと思います。そのために何ができるのかこれから考えていきたいと思っています。